

平成29年度 第1回神戸市歯科保健推進検討会（議事要旨）

日時：平成29年4月11日（火）19時30分から

場所：TKP三宮ビジネスセンター6階

司会：中山課長

1 開会（中山課長）

2 あいさつ（三木局長）

3 議事要旨

（1）口腔保健支援センターの設置について〈資料2〉

事務局）「“健康創造都市 KOBE”の推進」ということで、口腔保健を総合的に推進していくため、「神戸市歯科口腔保健推進条例」に基づき、「神戸市口腔保健支援センター」を設置した。業務内容、構成メンバーなどについては、資料2の①に記載している。

委員）歯科衛生士の担当地区はどのように決められているのか。

事務局）各区の業務量・出生数・人口の割合・健診回数等を勘案して、概ね大きな区とそうでない区を組み合わせで決定している。

（2）口腔がん検診の実施支援について〈資料3〉

事務局）口腔がんの早期発見・予防は大変重要であるため、平成29年度より神戸市歯科医師会への補助事業として500万円の予算措置を行った。

委員）神戸市歯科医師会としては、関係機関との連携を考えており、小委員会を立ち上げて事業の推進を図っていく予定である。

（3）訪問口腔ケア推進事業報告〈資料4〉

委員）神戸市歯科医師会より事業の進捗状況について説明

委員）2月に研修会を開催したが、開催にあたり歯科衛生士がどの程度集まるか分からず、最初は20～30名位の申し込みであった。再度歯科医師会を通じて案内をし、また、歯科衛生士会員の内、神戸市とその近辺の会員に対し、個別に案内通知をした結果、多数の参加となった。

委員）今回の登録者以外にも事業の参加希望者がある。今後は歯科衛生士の技量の向上も考えていかななくてはならない。

委員）今回の報告では、事業の対象者は3名とのことだが、希望者の選定はどのようにしているのか。

委員）神戸市歯科医師会より、平成28年度の対象者は訪問診療を推進している歯科医師の患者を対象とした。

委員）介護者側の理解を十分深めていく啓発も必要なのではないか。まだ知らない者が多いので周知をしっかりとしてほしい。

委員）神戸市歯科医師会として、今年度は周知に力を入れていく予定である。

委員）今後は対象者が増えていくか。

委員）神戸市歯科医師会としては、対象者は多いと思うが、治療後のケアにつながっていなかったため、今後は歯科衛生士会と協力して受診者の増加につなげていきたい。

今まで、歯科医師だけで行っていたことから、一歩進んだと思う。

委員) 訪問事業に登録している歯科衛生士は、兵庫県歯科衛生士会会員のみか。

委員) 兵庫県歯科衛生士会として受けているので、会員のみである。

委員) もう少し広げてはいかがか。

委員) 歯科衛生士の質的なこともあり、研修会を受講していただく意味でも会員で行っていく予定。

委員) 訪問口腔ケアが進んでいくためには、歯科医師や歯科衛生士だけでなく、介護関係の方々の協力が不可欠と思うので、他職種連携により事業をうまく軌道に乗せてほしい。

委員) 訪問診療は、国も推進してきている。利用者が使いやすいシステムが必要である。今回の研修は歯科衛生士のスキルアップにつながったと思うので、歯科医師も次回の研修を参考に、安全に事業を進めていくことが必要と考える。また、必要な方のニーズをしっかりと把握し、ケアマネ等を活用して、うまくつなげていくことが必要と思う。

委員) 色々なリスクのある方を対象とするので、研修等をクリアした者を事業実施者とするようなことも今後は考えていってもよいのではないか。

(4) 地域包括ケア推進会議の報告<資料5・5-1・5-2>

○ 地域包括ケア推進部会における検討項目<資料5-1>

事務局) 健康寿命延伸のための「介護予防」のあり方の中の項目として、口腔ケアが上げられており、在宅医療の充実を図るため、関係機関の連携が重要となる。

○ 専門部会の設置について(案)<資料5-2>

事務局) 専門部会の名称について、4つの部会を考えている。

(1) 健康寿命延伸のための「介護予防」に関する専門部会

(2) 医療介護連携のあり方に関する専門部会

以上の中に、歯科口腔に関する項目がある。

・専門部会の人選については、今後検討していく。

事務局) 専門部会での検討項目

(1) 健康寿命延伸のための「介護予防」

・機能改善につながる効果的な介護予防サービスの検討

・フレイル対策、口腔ケア等が歯科関連としてあがっている。

委員) フレイル対策に対しては、歯科技工士会としても色々模索している。

歯科医師・歯科衛生士の活動を技工士会としてどのように関わり、支えていけるのかを考えていくため、研修会等も実施している。

委員) 訪問診療の場合、他職種連携の中で、患者によっては様々な組み合わせが考えられるので、技工士会としての関わりもあるのではないかと考えられる。

委員) 高齢者に対する医科歯科連携について言われているが、医科の先生方の歯科に対する認知度が低く、重症化してからの依頼が多いので、もう少し早期からの関わりができないか。

委員) 専門部会の中に歯科関係者は入るのか。

委員) 介護予防には、歯科衛生士の関わりが、ある程度効果的であるということが立

証されているので、ぜひ専門部会の中に歯科衛生士を入れてほしい。

事務局) 人選については、まだこれからである。

○医療介護サポートセンター事業の効果検証<資料パンフレット>

事務局) パンフレットに基づき説明

委員) 地域包括ケアシステムの中にすでに組み込まれているので、それぞれの立場でできることを考えていかなければならない。例えば認知症の早期発見につなげたり、また他から何かをつなげられたりする立場にあると思われる。

サポートセンターについて歯科医師との関わりはどのようになっているのか。

事務局) サポートセンターは市医師会・区医師会等により作られた経緯があり、歯科関係者がどのように関係していくかは考えているところである。

一部区では、すでに関連ができているところもある。

口腔保健の部分をどのように入れていくのか、区ごとや市としてのアプローチ等の方法がある。

委員) サポートセンターは神戸市医師会が主体と考えていたが、市が関係しているのなら、歯科医師会としてのアプローチにしていこうと思うが。

委員) 長田区では今年度よりすでに参加しており、歯科医師会としてできることを考えていっている。

事務局) 区によって関わり方がかなり違うように思うが、医師会側の在宅ケアに関する温度差があるので、順次実施していっている。

医療介護サポートセンターは、市民相手ではなく、医療関係者等からの相談に答える窓口である。

委員) 北区では、病院が関与しているのでほとんど機能していない。行政から働きかけてほしい。医師会は別途会議を持っている。

事務局) 北区の場合、医師会が病院にお願いしているので、医師会に働きかけをしていただきたい。

委員) サポートセンターの件に関して歯科医師会は、医師会に比べると基盤が弱いため、連携を進めていく上で限界を感じているが、区において、医師会、歯科医師会の会長同士の連携が必要ではないかと思う。今後必ず進めていかなければならないため、医師会との良好な関係を模索している。

委員) サポートセンターシステム構築への歯科医師会の参加は、うまくいっているところを参考にすすめていってはどうか。普段からよい関係づくりが必要と思われる。

(5)「こうべ歯と口の健康づくりプラン」の改訂について<資料6>

事務局) 現在のプランについて、資料を基に概要を説明

委員) オーラルフレイルが抜けているので、今後それを入れていく必要があるのではないか。

事務局) フレイルの上位2段階に前にオーラルフレイルがあるとのことで、今後はそれらも含めて考えていきたい。

委員) 周術期の連携はプランに入っているが、今後はその他の疾患も含めて連携を考えていきたいが、この会議の中で検討していくのは、時間的に難しいのではな

いか。

- 事務局) 開催回数か内容を絞り込む必要があるのか、回数等を含めて今後検討したい。
- 委員) プランの中に、外傷で脱臼等も多いため、特にスポーツ外傷や顎関節症等もどうか。
- 委員) 口腔機能不全に関することも、フレイルと絡めて口腔機能低下症というのは、今話題にのぼっているところである。
- 委員) 噛むことについては、姿勢が大切なので、そのあたりも入れたらどうか。
- 委員) すべてのライフステージとなっているが、高校・大学となると親の目も届かず、生活も不規則になりがちで、口腔内の状態が悪くなることが多い。18歳から20代くらいのくくりで何か対策を考える必要があると思う。
- 委員) 3歳児までの歯科のデータはあるが、学校のデータはとれるのか。
- 事務局) どのようなデータが必要かによるが、すべてがある訳ではないが、出せれるものはあると思う。
- 委員) データは必要で、データを元に対策が考えられると思う。
- 委員) 教育委員会に必要なデータの提供を依頼したら、プライバシーに関係しない範囲で出してもらえらると思うので、それを元に対策が考えられるのではないかと。
- 委員) 妊娠期の対策について、妊婦本人の口腔内の注意とその後の子どもへの影響について分けたらどうか。
- 事務局) 今回説明に使用した資料は、概要版であるため分かりにくいですが、本編の中では分けて詳しく説明している。案の提示はできるだけ早くお願いしたい。連絡方法は、Eメールが可能であればご協力をお願いしたい。
- 委員) 次回の議題について、今回は6月開催となるので、歯と口の健康プランの案を提示していかないといけないと思われる。
また、取り上げたい議題として、サポートセンターとの関係も考えていく必要があると思われる。
- 委員) 若者・壮年期の内、企業（健診）へのアプローチの強化を考えていく必要があるのではないかと。
- 事務局) 次のプランは5年間となる予定なので、今後5年間に向けてどのように進めていくのか考えていきたい。
11月は市民向けの啓発を考えている。
- 委員) 健康づくりプランの根本的なところは、現在のものもよくできていると思うが、大きく変えるのか部分的に変えるのか。
- 事務局) 国や市の関係からも大きく変わるものではないが、オーラルフレイルのような新しく出てきた内容も盛り込んでいきたい。4年間の中で変わったところを入れていく。
- 事務局) 市長の方針は作文行政からの脱却。中味をしっかりと5年間持つか。
条例ができたので、位置づけが変わってきているので、意見をもらいながら組み直していくべきと思う。